

…ぶらり東京駅探検…

日時:2015年6月27日(土) 天候:曇り 4000歩 約2.5km

集合:JR 東京駅丸の内北口 14時

コース:東京駅丸の内北口→ステーションギャラリー・北口ドーム→東京駅正面→南口ドーム・ステーションホテル・虎屋
→「KITTE(キッテ)」6F テラス→丸ビル1F→新丸ビル→八重洲連絡通路/八重洲口→東京駅構内(解散)

参加者:講師=山岡光治氏

吉越(L) 荒波 神谷 仲 安永 伊藤真 小野里 青松 藤原和 斉藤優 深瀬 中村 沢崎 小林俊 山内 森川
井内 宮野 山川 市村 山下 清水靖 平林勝 小島ま 桑原 穴原 塩川 小島重/小雪(吉越さん孫) 計30名
「駅を目的にしてゆっくりすごす…」。かつて吉永小百合を起用した、JR 東日本「大人の休日倶楽部」のCMを思い出しますが、日本の道路の起点が日本橋なら、鉄道の起点は「0キロポスト」のあるここ東京駅です。今日は2012年10月に復原工事が完了した東京駅とその周辺を山岡先生の案内で巡りましたが、普段は何気なく通り過ぎる通路にも、古い歴史が刻まれていることを改めて知ることができ、久しぶりにゆっくりとした駅ウォークとなりました。

<フォトレポート 小島重>



●東京駅丸の内中央口前の石碑ポイントにて。(皆さんが傾いて立って見えますが広角レンズのせいです！)

1889年に国鉄東海道本線の新橋 - 神戸間が全通し、私鉄の日本鉄道が上野を始発駅として青森に向けて線路を建設していた。そこで、新橋と上野を結ぶ高架鉄道の建設が東京市区改正計画によって立案され、1896年の第9回帝国議会でこの新線の途中に中央停車場を建設することが可決された。実際の建設は日清戦争と日露戦争の影響で遅れ、建設工事は戦争終了後の1908年から本格化し、1914年12月18日に完成し、同時に「東京駅」と命名された。(Webサイトより)



東京駅丸の内北口構内から山岡先生の解説スタート。



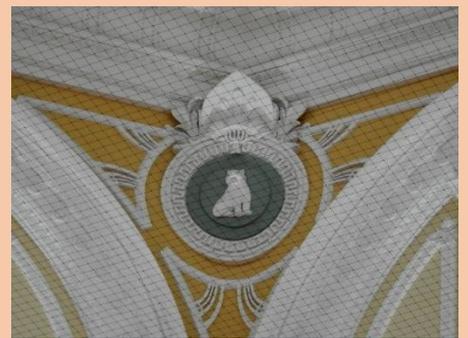
北口のドーム天井。内側には様々な彫刻が見られます。



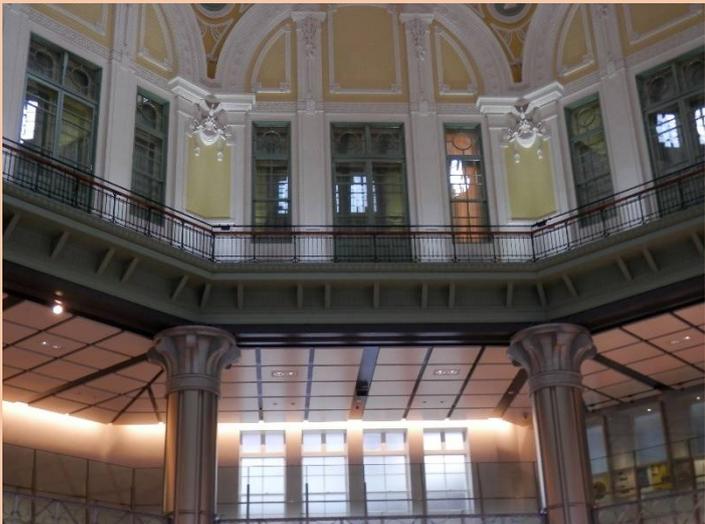
鳳凰、動輪と矢束のレリーフ



秀吉の兜のモチーフ



千支のレリーフ



様々なレリーフを探してみるのも面白いですよ。



ステーションギャラリーの新旧レンガ。



上を見上げていると首が...



天井を支える柱も独特なデザインです。



小さな東京駅丸の内中央口です。



こちらは皇室専用出入口 ↑



左右に植えられた松が目立ちます。



東京ステーションホテルの正面入り口です。



丸の内南口。案内も三カ国語表記になっています。



南口構内のある場所・・・



ここは原敬首相の遭難現場です。



足元に目印ポイントがありました。



南口からステーションホテルに入ります。



↑1F エレベーターホールと2F エレベーターホール ↑





2階の回廊から見下す南口構内。ドーム天井に似たフロア模様ですが、ここから見ると立体的に見えます。



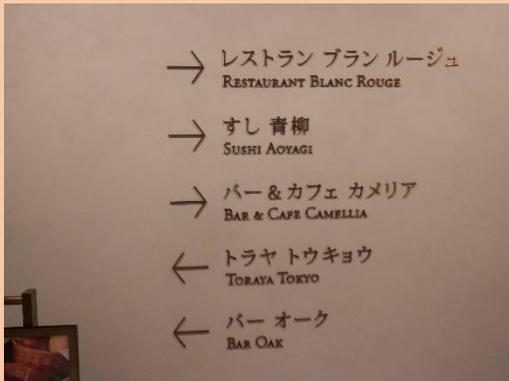
2階の回廊は一周出来ます。



途中にはあの虎屋も。



東京駅の全体模型が展示されていました。



一度ここに泊ってみたいものです。



エレベーターを待つのも静かに...



東京中央郵便局の跡地は KITTE(キッテ)として、かつての姿を残しつつ近代的な高層ビルに生まれ変わりました。



6階テラスに出ます。皇居方面は霞んでいました。



見つめる視線の先には何が？



眼下にはリニューアルなった東京駅が見下せます。



二つのドームが重なって見えるベストポイント！



南端には小さなドーム屋根も。



KITTE6階から見た三角形の1階フロア。



3階にある東京大学のミュージアム。



後半に入り山岡先生の説明にも一段と熱が入ります！（聴き手も）



KITTE 丸の内中通り側に出ます。



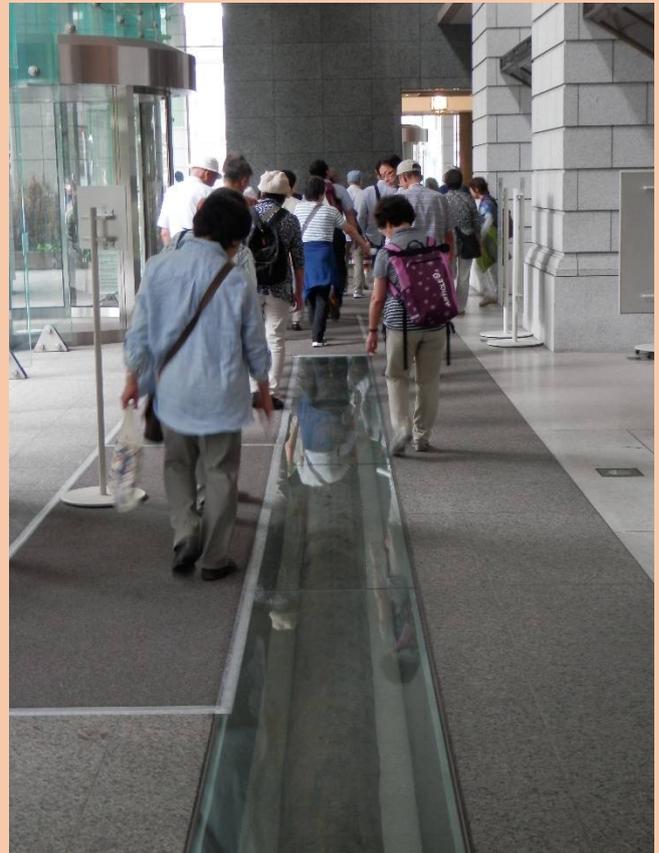
ビル前の郵便ポストも象徴的。



雨が降らないか気になりますが...



丸ビル1階。旧丸ビルを支えた松杭のレプリカ。長さは15m、計5443本使われていました。↑これは実物です。





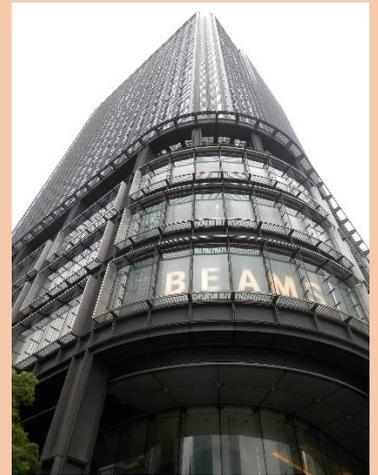
<左右が切れましたが皇居側から見た東京駅全景。梅雨の合間、今にも雨が落ちてきそうな空模様です>



KITTEと丸ビルのコラボ。



今日はやたら首が疲れる日になりました。



こちらは新丸ビルです。



近くの三菱UFJ信託銀行ビルにあるモニュメント。



東京駅八重洲北口を抜けて目指すのは…



江戸時代この辺りには北町奉行所がありました。



奉行所の下水溝の石組です。(実際の位置は別)



もう一つの石碑は東京駅大丸の北隅にありました。



ここ八重洲口で解散です。皆さんお疲れ様でした。

※午後2時スタートのショートウォークでしたが、東京駅とその周辺の奥深さを知ることが出来ました。中でも南口2階のテラスから見下した構内は、幾何学模様が浮き出っていて私には新発見でした。初代駅舎は大正3年に創建され、昭和20年の戦災を経て2階建てで復興しましたが、平成の世に創建時の仕様・工法で見事に復原されたこの東京駅を見ると、設計者である辰野金吾の思いが伝わってきました。歴史的建造物の保存が各地で行われていますが、ともすれば近代化の名のもとに消えていくのが何とも残念なことです。

■今回をもって山岡先生のガイドウォークは終了となります。これまでその専門的なお立場から、地図を片手の楽しく勉強になるディープな場所を案内していただきました。今後はまた一学生として大学に通われるそうですが、また機会がありましたらお話を聞かせていただきたいものです。お世話になり有難うございました。